

ボランティア・ユース ESD 応援講座

～不易と流行・子どもの活動支援に向けてスキルアップ！～

- 趣 旨** 青少年教育施設における今日的な役割を理解し、子供たちの体験活動を支援するボランティア活動について、基本的な知識や技能を習得するとともに、時代に応じた防災・減災教育や ESD を取り入れることで、施設ボランティアとして必要な資質・能力の向上を支援する。また、研修を通して参加者同士の交流を図る。
- 主 催** 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
- 共 催** 福岡県立社会教育総合センター・福岡県立英彦山青年の家・
福岡県立少年自然の家「玄海の家」
- 後 援** 福岡県教育委員会
- 期 間** 令和3年10月30日(土)～10月31日(日) 1泊2日
- 会 場** 国立夜須高原青少年自然の家
〒838-0202 福岡県朝倉郡筑前町三箇山1103
- 対 象** 主に高校生及び大学生等(社会人も可)
- 参加者** 参加人数：24名
- 日 程**

10月30日(土)
(午前)研修①「青少年教育の理解」～青少年と体験活動の教育的意義～
国立夜須高原青少年自然の家 所長 井上 智朗
(午後)研修②「ボランティア活動の意義」
福岡県立英彦山青年の家 主任指導主事 岩本 健太郎
研修③「ESD・SDGsとは」
国立夜須高原青少年自然の家 次長 樋口 拓
研修④「KYT(危険予知トレーニング)」
福岡県立社会教育総合センター 社会教育主事 原口 好史
研修⑤-1「防災・減災 防災クッキング」
国立夜須高原青少年自然の家 企画指導専門職 篠原 和広
研修⑤-2「防災・減災 避難所運営ゲーム(HUG)」
福岡県立社会教育総合センター 社会教育主事 上野 修司
研修⑥「法人ボランティア制度とは」
国立夜須高原青少年自然の家 事業推進専門職 中村 匡寛

10月31日(日)
(午前)研修⑦「安全管理(応急手当)」
Waku Waku OFFICE あそBe隊 隊長 薄井 良文
(午後)研修⑧「青少年教育施設の現状と運営」
福岡県立少年自然の家「玄海の家」 主任社会教育主事 川野 顕太郎
研修⑨「青少年教育施設におけるボランティア活動」実践発表
国立夜須高原青少年自然の家 事業補佐員 嶋村 董
福岡県立少年自然の家「玄海の家」 社会教育施設指導員 山下 舞



10 活動の実際



【研修①「青少年教育の理解」】



【研修②「ボランティア活動の意義」】



【研修③ESD・SDGs とは】



【研修④KYT (危険予知トレーニング)】



【研修⑤-1 防災・減災 防災クッキング】



【研修⑤-2 防災・減災 避難所運営ゲーム (HUG)】



【研修⑧「青少年教育施設の現状と運営」】



【研修⑨「青少年教育施設におけるボランティア活動」】



【全体集合写真】

II 感想

- 職員の皆さんがとてもフレンドリーで、ユーモアがあって、とても楽しかったです。参加して本当によかったなと思います。準備も運営も大変だったと思います。お疲れ様でした！
- これまでのボランティアの中で1番学びある経験をさせていただきました！ありがとうございました。
- 2日間ありがとうございました。とても学びのある2日間で、ボランティアに参加しようと思いました。友達にも伝えようと思います。
- 1つ1つの講義がきちんとテーマに沿って、お話されており、理解しやすかった。改めて確認出来たことや、初めて知ったこともたくさんあったので、参加出来てとても良かったです。2日間ありがとうございました。
- 初めは単位をとるための参加で何するのかも知らずに来たが、参加してみると、なぜか講義も楽しく、どんどん興味が湧いてきたり、もっと社会のこと、ボランティアのことが知りたい！と思うことができるようになった。
- とてもおもしろい講義ばかりで、聞き入ってしまいました。講師の先生方もとてもおもしろく、わかりやすく、ボランティアについて改めて考え、理解を深めることができました。また、このような機会があれば参加したいです！
- ボランティアが必要な理由を改めて確認することができ、知らなかったこと忘れていたことも学ぶことができました。これからは活動の幅を広げて常にスキルアップしていきたいです。2日間ありがとうございました。
- 2日間、とても充実していました。実施して頂き、ありがとうございました。また、何かあれば、すぐに行きます！よろしく願いいたします。2日間お疲れ様でした。
- いい仲間ができ、とてもいい経験になりました。ありがとうございました。

12 成 果

- コロナ禍によって、当初予定していた開催日より延期になったが、早い段階から多くの大学に挨拶や広報を行っていたことで、様々な大学生が集い、充実した研修を実施することができた。
- 企画・立案時に、本事業の目的をしっかりと明確化したことで、主催者側が意図したことが参加者側に伝わり、アンケート結果から見ても分かるように、一貫した意義のある研修になった。
- 安全管理（応急手当）は、元山岳救助隊長をされた薄井良文氏に御指導いただいたことにより、人命救助の考え方や方法、リスクマネジメントについて臨場感のある実習を実施することができた。
- 現代のニーズに応じた「ESD（SDGs）や防災・減災教育」を取り入れたことで、参加者には大好評であった。また、人権的視点や多様性配慮、他者理解等、ボランティアに必要な心構えや姿勢を身に付けることができた。
- 本事業後、法人ボランティアの登録希望者が24名あった。うち2名は、後日実施された教育事業でのボランティア参加につながった。

13 課 題

- 本事業は県立3施設と共同開催しており、例年、経験豊富なボランティアにも参加していただいているが、今回は、コロナ禍での少人数募集やユース育成という趣旨であったため、経験豊富なボランティアの育成にまでは至らなかった。次年度は、この連携が途切れることのないように、経験豊富なボランティアとユースボランティアが融合できるような充実した研修になるように、連絡・調整していきたい。
- 新型コロナウイルス感染症の影響は、今後も続くと思われる。参加者の不安が取り除かれるように万全な感染対策を講じるとともに、あらゆる方法で実施できるように、事前に検討・準備しておく必要がある。
- 今後も、早い段階から各大学への挨拶や広報を行うことで、多くの新規ユースボランティアの育成に向けて努めていきたい。